

# 世界遺産登録3周年

コンサートや  
セミナーなど

## 「紀伊山地の霊場と参詣道」

7日は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録なってちょうど3周年。和歌山県では1日から7日までを世界遺産週間とし、高野山で声明（しょうみやう）ライブなど、また真世界遺産センター（田辺市本宮庁内）で熊野曼荼羅絵解きや杖作りの体験、健康ウォーキングなどを行い、最終日の7日にはミニコンサートやセミナー、餅（もち）まきなど記念イベントを開催した。

ミニコンサートには「作られた」という「祈りの道と文化的景観」と題して語った。和歌山出身のシンガー、ラストナインクライター、佐野安佳里さんを招いた。佐野さんは16歳からピアノの弾き語りライブを始め、2004年には軽井沢ラフソングウォードでオリジナル曲「虹色」で優秀賞。同センターでもピアノの弾き語りや癒やしのコンサートを披露。東京を中心に音楽活動をしている和歌山が大好きで、昨年は10回も帰ってきたという「思い入れ」の話など交えながら約1時間、情感豊かな声を響かせた。熊野をイメージし



辻林センター長らがセミナー

道については人工林が多い地域であり、近年の自然林回帰の風潮に關しては「世界遺産登録になったのは今の状態の森林であったことであり、とりあえずは良好に保つていくことが保護・保全につながる」とした。今後の課題としては、条例の及ばないところの保存をどうするかといった点を挙げ、また地元に残っている文化をどう継承していくか、また無くなってしまうものの再構築も課題とした。

次いで、同センターの速水盛康主任が後鳥羽上皇に扮（ふん）し、高野・熊野の魅力などを語った。高野山地の町石道（ちよういしみち）は一つひとつ手を合わせて拝み迎（たむか）える道とし、熊野古道においては地蔵がたくさん建てられていることなど特徴を話した。また熊野の神々の子どもを祀（まつ）っている



佐野さんによる「癒やしのコンサート」

「王子」の意味など述べ、「目には見えぬが、確かなものがここにあり」と、神々に守られるがらの参詣であったことを述べた。伝承にもふれ、袈裟掛石（けさがけいし）や押上石（おしあげいし）、熊野川（おしあげいし）、熊野川（おしあげいし）の屋嶋（ひるしま）や比丘尼転び、また岩神神社などの話を引用し、「身分制度の厳しい中にある（中略）」熊野詣は助け合いながらの参詣、高野山は死んだあとも霊地」といった特異性を語った。最後に同センターの七瀬高至主任が、前2

人のセミナーのまとめといった形で世界遺産とは何か、文化的景観とは？「世界遺産の保存と観光は両立するの」といった事柄について語った。七瀬主任は、世界遺産登録がアスワンハイダム（エジプト）の建設がきっかけで始まったことや、「紀伊山地の霊場と参詣道」が登録された理由、また人工林であったから森林整備され今日まで自然環境が保全されてきたことなど語り、今後も森林整備はもとより、「道普請」などの努力が続けられることを祈念してセミナーを閉じた。

平成19年7月10日付 紀南新聞

TEL 0785-42-1044 FAX 0785-42-1800